

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201221	
法人名	医療法人光成会	
事業所名	グループホーム西弘	
所在地	青森県弘前市中野1丁目9番地12	
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270201221&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会	
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階	
訪問調査日	平成22年12月8日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>西弘前クリニックい併設されており医療面に手厚い介護サービスを提供している。入居されている方やご家族の方にも安心出来る環境にあると思われる。日々のせいかつの中で個々の力を発揮し機能の低下を防ぐように工夫している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の母体は近隣に位置する医療機関であり、定期的な回診や緊急時の協力体制が確保されているため、医療面のサポートが充実しており、安心して生活できる環境にある。事業所の食事はメニューを固定せず、各ユニットごとにメニュー作成から食材購入、調理まで行われており、より良い生活の場として日々取り組まれている。また、地域交流にも力を入れており、地域行事の際には事業所を開放するなど、地域密着に向けて取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作りあげている。内部研修で理念作りを行い理念の大切さを認識している。	事業所独自の理念が作成されており、職員が見やすい場所に掲示されている。また、職員は理念を振り返り業務にあたっている。	ユニットごとの理念作成にも取り組まれているが、掲示するまでには至っていない。ユニットごとの特徴を取り入れた理念を作成し、職員で共有していくことが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内を散歩コースにしており、買い物は近所のスーパーに出かけている。又弘前市内の郷土祭り四季折々の景色を見学し地元の方々と交流している。	地域の祭りの際には事業所を開放するなど、地域との交流に向けて積極的な取り組みが見られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園児や町内の方々の手踊りの慰問をはじめ自治会からも行事への参加要請があり文化祭へ利用者の作品を出展、もちつき大会等にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では議題にあった意見を出して頂き、それを今後の取り組みにつなげている。報告や情報交換の場にもなっている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、行政職員及び地域包括支援センター職員のどちらかが必ず参加されている。地区会長や民生委員、入居者代表など参加されており、避難訓練や外部評価、地域の行事などについて話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらっている。疑問点や確認ごとがある場合は市町村からの助言等を受けており協力関係を築くようにしている。	事業所での分からない事や困難事例の相談など積極的に行政に出向き、関係強化の働きかけが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないという姿勢で日々のケアに取り組んでいる。マニュアルを作成しており職員にも周知している。	身体拘束のマニュアルが作成されており、それをもとに勉強会も行われ、職員への周知徹底がなされている。日中は玄関の施錠をせず、入居者の行動に注意して業務にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を利用し職員一同で話し合いマニュアルを作成し防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部研修・運営推進会議をで権利擁護制度の理解を深めている。家族から相談があれば制度についての説明も行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は理念・運営規定等十分に時間を取り説明をし利用者・家族の疑問点や希望を聞き理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けており不満・苦情があれば記録を取り改善に向けて職員一同で話し合い改善に向けて取り組んでいる。また玄関には投書箱も設置している。	苦情の発生時には改善に向けた取り組みが出来るように、様式を作成して職員の話し合いが持たれている。玄関には意見投書箱も設置され、意見の収集にも努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員ミーティングを開き意見・提案を聞く機会を設けている。1・2階の合同ミーティングを行っている。	月に1回は各ユニットで会議が行われ入居者の状況や行事等について話し合い、職員の情報共有に繋がっている。管理者は職員の意見をもとに上司に報告し、業務に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務内容の見直しを職員全体で行い勤務意欲を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	相談役による内部研修を定期的に行い職員の育成に取り組んでいる。外部の研修にも参加し研修報告の発表も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に参加しており、交流や勉強の場所となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面談で本人・家族と話し合っており、聞き取りの時間も長く取り対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時家族とは十分に時間を取り話し合い対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にとってその時最も最善の支援が提供できるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に女性が多く一緒に手芸をしたり料理を教えてもらったりと、活躍する場面が多く学んだり支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事には積極的に参加を呼びかけ入居者と一緒の時間を共有出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の希望時には知人等と電話されたりしている。ドライブでは馴染みの場所や近辺を通るようにしている。入居者が自宅への帰省を希望した時は家族協力のもと外泊してもらっている。	友人や親戚の訪問、自宅に外泊するなど関係性の継続に努めている。入居者の個々の状況により、馴染みの理美容院へ出掛けたり、買い物に出掛けたりされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は良好であり孤立しないように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所した後も病院へ出向き家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の外出・買い物・散歩等の希望にはなるべく対応し困難な場合は家族に協力を求めている。	入居者の意向に合わせて買い物や散歩に出掛けている。家族の面会も多く、職員は積極的に声を掛けて、意向の確認に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者には馴染みの物を盛って来て頂きなるべく以前の生活に近くなるように努めている。本人や家族に入居後も生活歴等の情報収集をし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を採用しその人らしさを把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は必ず本人・家族の意見を聞きカンファレンスには職員全員が参加し作成している。	3ヶ月に1回は評価を行い計画を見直している。見直しの際には職員全員参加のカンファレンスを開催し、話し合いの中から作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記録し毎月処遇状況のまとめを記入し変化等を記録している。担当制にしており各ケース担当者が毎月まとめ、介護いのかくの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化を活かした支援はしていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にも民生委員・地域駐在所の方にも出席して頂き協力を要請している。年2階の避難訓練には消防署に連絡し協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に受診していた病院への通院希望者には入居後も受診援助している。	入居前からの医療機関の受診を継続され、受診支援も事業所で対応されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を配置しており併設する病院とも連携体制を整えており24時間体制で支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と情報交換や相談をし早期退院の向け努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に終末期ケア・看取りについて全入居者に確認し記録している。又併設する病院の医師には状態に変化がある場合連絡し適切なアドバイスや対応をしている。	重度化した場合の対応については、家族に十分な説明が行われている。母体が医療機関であり、定期的な回診も行われており、緊急時にも適切な対応ができる体制にある。看護師の配置により、日々の健康管理も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを掲示している。定期的な訓練は実施していないが、初期対応についてはその都度話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており夜間想定での訓練も行なっている。災害時には地域の方々が協力してもらえるよう協力体制を築いている。	年2回の避難訓練が行われ、非常通報訓練も行われている。運営推進会議において非常災害についての話し合いが持たれ、町会長の協力のもとに、地域への協力体制作りにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けについては常に職員全員で話し合いの場を持ち、誇りやプライドを損なわない対応が出来る様に努めている。	職員は入居者との会話を大事にしている。会話の際は入居者の話を良く聞くという意識を持って接しており、言葉遣いにも十分注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で表情や態度等から心情を汲み取りなるべく自己決定をしてもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように出来るだけゆったりとした時間を持ち一人一人のペースを大切にするように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋品店等には外出を希望される入居者には対応している。理容に関しては希望時にホームに来てもらっている。馴染みの理容店が有る方には外出援助も行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養のバランスを考えて調理をしている。薬の関係上食べれない食材がある場合は代替で対応している。簡単な調理・配膳食器拭き等は手伝ってもらっている。昼食は職員も同じ物を食している。	ユニットごとに職員がその日のメニューを決めて調理されている。季節毎の旬の食材を使用するように心がけて、毎日、職員が購入している。食事の際には一緒に食事する職員と見守る職員に分かれて対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養のバランスを考えて献立している。食事・水分補給摂取量は把握している。定期的に栄養士へ献立をチェックしてもらい助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行なっている。独力で出来ない方には職員が促し一部介助を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁者やオムツ着用者には排泄チェック表を個別に用意し記入、排泄パターンを把握し定期的にトイレ誘導・オムツ交換を行い不快感を与えないように努めている。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンの把握に努めている。個々に合わせたトイレ誘導やおむつ交換が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分補給を心がけ献立も野菜を多く取り入れている。排泄チェック表を作成しておりコントロールが難しい時はチェック表を確認し下剤を服用してもらう場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日を定めているが時間帯は本人の希望やタイミングに合わせている。	入浴日は決められているが、入居者の要望に応じて入浴日以外の入浴や清拭などに対応できる体制にある。夜間の入浴にも出来るだけ対応するように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行事等の外出時は慰労感の有無を確認している。安眠出来る様に夕方には足浴を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が理解しており服薬の見守りは必ず行なっている。又内服薬の種類・用法・用量等をファイルして管理しており常に確認出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力を発揮して頂き役割・楽しみを持った生活支援を心掛けている。調理・裁縫・手芸等を行なっている。地域の文化祭へ手芸作品を出展している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に散歩に出かけたり歩行が不自由な入居者は外気浴を行なっている。四季の変わり目にはドライブを行ない支援している。	町内の散歩には日頃より積極的に出掛けるようにされている。また、近隣のスーパーには入居者の希望により一緒に買い物に出掛けている。年間の行事計画も作成されており四季を通して外出できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量に合わせて管理している。小遣い程度の金額は所持しており外出時等はその中から支払いをする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務室のカウンターに設置しており自由に使用できる。電話を掛けたいという希望にも対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にはプランターで花を植え明るい雰囲気になっている。玄関には椅子を置き靴を脱いだり履いたりする時に使用してもらっている。共有の空間には生活感や季節感を採り入れ入居者が制作した作品や職員が持ち寄った花等を飾っている。	共用空間には行事の写真や、入居者とともに作成された作品の装飾がされている。温度管理も適度であり、調理風景や生活の音が感じられるつくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があり入居者が自由に過ごせる場所になっているが車椅子利用者が多く食堂が主な共有の空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや座椅子・写真・仏壇・ベッド等を使い慣れた物を自由に自室へ持って来てもらい自由に配置してもらっている。	個々の入居者の意向に合わせて、それぞれに個性豊かな居室となっている。持ち込み品の制限もされていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段・廊下・ホール内・自室のトイレ等には手すりが設置されており、ベッドの手すりも身体機能に合わせて位置を変えたり数を増やしたりして対応している。		